

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273200582		
法人名	株式会社 リエイ		
事業所名	癒しの浦安ふじみ館		
所在地	〒279-0043 千葉県浦安市富士見2-21-36		
自己評価作成日	令和5年10月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令5年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が「普通の毎日」を当たり前で暮らして頂けるように「その人らしい生活」「その方の状態に合わせた生活」を職員皆で考えて意見を出し合いながら支援しています。
医療面でも常勤の看護師はいませんが、24時間連絡可能な往診医や病院と連携し主治医や看護師と必要時には相談や連絡、連携が取れる様になっています。(電話だけでなくSNSも活用しています。)
コロナが5類となった事で運営推進会議やご家族や友人のご面会も事前連絡は頂いておりますが、通常通りに行える様になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「癒しの浦安ふじみ館」は、浦安市にある3階建てのデイサービス・居宅介護支援(現在休止中)・グループホームが入っている総合介護サービス施設で、2・3階部分がグループホームとなっている。“介護を快護に”をテーマに掲げ、「人は人によって癒される」を施設理念とし、入居者が穏やかで安らぎのある暮らしが送れるよう支援している。日頃から職員は、入居者が出来る事は自分で行って頂くという意識を持ち、生活リハビリ随所に取り入れ、自立支援を目指すと共に、様々なイベントを用意し、生活活性化や認知症の進行緩和に繋げている。全室個室となっており、各居室には洗面台が備えられ、車いすでの利用も可能となっており、共同生活を大事にしつつ、入居者一人ひとりを尊重する環境を整えている。医療面において、連携医療機関の医師・看護師等とは、その時々状況の変化やニーズに応じて、迅速かつ的確な支援が行えるよう体制を整えている。看取り支援の実績が多く、必要機関との連携と共に、経験を活かした柔軟な対応が可能となっており、入居者や家族の不安解消に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員、入居者様が同じ空間を共有する人として自然に過ごせるようにしつつ、事務所内に理念等を掲示し、共有に努めている。	法人の基本方針と施設理念を事業所内に掲示すると共に、ホームページやパンフレットに掲載する等、内部・外部の人への周知を図っている。新人研修及び現任研修は法人が実施しており、法人理念・施設理念・運営方針等の意識浸透を図っている。日頃からカンファレンス等を通じて、意識共有に努め、理念に基づいたサービスの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふじみ2丁目自治会には参加しているが活動はあまり活発ではない。その中でも職員と花屋へ買い物に行く等地域との関わりはもつようにしている。	自治会に加入していると共に、日常の散歩や買い物等を通じて、地域との繋がりを大切にしている。また、月2回の移動販売のパン屋や近隣商店での買い物を通じて、近隣住民とふれあう機会も多い。地域貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。コロナ禍の為、地域との交流や地域行事への参加の機会は無かったが、今年度はデイサービスとの交流を再開する等、地域活動の復活に向け取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの入居条件が認知症である事を理解されないまま問い合わせや飛び込みでの見学に来られる方もいる。我々としてはご入居の条件に合っていないくても「困っておられることには変わりはない」という考えのもと、相談等には乗らせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ5類に移行と共に中止していた運営推進会議も再開。8月に再開後初回の会議を行い、コロナ禍での約3年間の活動報告をスライドショーを交えながらお話しご理解を得ると共にご意見もいただき今後の運営に活かしていこうと考えている。	市職員・地域包括支援センター職員・家族・施設職員等を構成員として、年6回、運営推進会議を開催している。会議では施設活動の報告・意見や情報交換を行い、施設の理解促進に努めている。また、会議ではスライドショーを活用する等、会議の形骸化防止や出席率の向上に取り組んでいる。挙げた意見や提案については、サービスの質向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多く中、社会福祉課のケースワーカーさん等と連携し、協力体制を築いている。	市とは、日頃から業務全般における相談や情報交換を行う等、協力体制を構築している。また、市職員や社会福祉協議会職員が運営推進会議に参加しており、会議を通じて施設の活動や支援の取り組みを伝える等、連携を図っている。その他にも、社会福祉課のケースワーカー来訪時に、入居者の生活状況や要望を具体的に伝え、る等、課題可決に向け、共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に職員一同、身体拘束はしない事が当たり前と捉えて日々、支援している。カンファレンスでも身体拘束の可能性については検討し意識を再確認している。ハード面では1階玄関は防犯の為施錠しているが各フロア出入口は施錠していない。	身体拘束排除における施設方針を明確にしていると共に、内部研修も実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。身体拘束廃止委員会をフロアカンファレンス会議の際に開催しており、身体拘束をしないケアの実践と共に、家族からも理解が得られた入居者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修は毎年行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際におられる成年後見人制度を利用されている方の支援から肌で感じる実例として日々、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学時からしっかりとリスクやご家族のご協力についても説明させていただき、契約時や計画書の説明時も含めてご納得いただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様からの苦情はあまりないのだが我々は「逆に言えない環境にはなっていないか」に注意を払うようにしている。後見人さんからのご意見や入居者様との日々の何気ない会話から生活しているの息苦しさがないかは注意を払っている。	家族の面会時・電話連絡・運営推進会議開催時を活用し、意見や要望を引き出している。挙げた意見・要望においては、会議・申し送りノート等を活用し、周知・検討を図り、適切な改善に向け取り組んでいる。毎月、居室担当者が日常生活の状況を写真入りで伝える、「ふじみかん便り」を家族に送付しており、施設の理解促進及び信頼関係構築に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各、フロアとしてはカンファレンスを基本に日々の会話も含めて意見や提案を聞く様に心がけている。「正解や間違っているはない」というスタンスを意識している。	定例会議やカンファレンス等を活用し、職員の意見・要望等を確認している。挙げた意見・要望・情報等は会議にて検討を図り、ケアに反映させている。また、法人主催の内部研修への参加機会も確保されており、やりがいや向上心が持てる職場環境作りに努めている。会議内容は報告書としてまとめられ、全職員への閲覧を義務付けている。その他に、記録はパソコンネットワーク“カナミック”を活用して行われており、職員の日常業務軽減に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の適正、得意な事等を踏まえて業務分掌をしている。介護リーダーには本社のリーダー研修に参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部の研修と共に施設内研修にてスキルアップや意識の再認識をしている。安全、危険は別として認知症の方の介護にベストな正解はないのでよりベターな方法はないか日々の支援の中で相談しあい実施している。結果、それがトレーニングになっていると思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社の運営推進会議への参加や他施設への見学を行ってきた。他者を見て見えてくる課題もあり「質の向上」に一役買っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居初期は慣れていただくことを優先し、様子を見ながら声を掛けている。その後、積極的に声を掛けて信頼関係の構築に努める様にしてご本人の本音等の聞きだしをしていく様に考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを傾聴しながらもサービス導入時にはグループホームとして「できる事」「できない事」は丁寧に説明をしながらはっきり伝えている。「こんなはずじゃなかった」という思いをご家族にさせる事がないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「ご本人・ご家族」の思いを聞き取りグループホームでの生活の中で実現可能なものと緊急性の高いものを中心に始めていき支援によって大きく環境等が変わりすぎない配慮をした対応をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員とは同じ生活空間を共有している者同士という気持ちを大切にしている。一定のラインは踏み越えないように気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日々の支援とは違う、ご家族にしかできない支援がある事をお話し、一緒に協力しての支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正直、3年以上に及ぶコロナ禍にて途絶えてしまった関係性がある事も事実。今はご面会等もできる状況となり、少しずつ関係の再構築が始まっている。	希望に応じて、友人・知人・家族等の来訪を随時受け付けていると共に、手紙や電話のやり取りも自由となっており、馴染みの人との関係継続を支援している。コロナ5類変更に伴い、通常の家来面会が可能となった事から、地域社会との交流機会を徐々に増やしており、今後はコロナ禍前の関係継続支援に近づけることを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活であり、利用者様間との関係が悪いこともある。全ての入居者様と良い関係でなくても良いとも思っている。その様な関係性の中で利用者様同士で関わり合い、職員も交わりながら必要に応じて支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去以外でのサービス終了はほとんどが医療行為が必要になり退所となったケースである。あえてのご連絡はあまりしないがご連絡があった時には話を聞き、相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント含めてご本人、ご家族とお会いした時に話を聞き以降の把握に努めている。	入所前に、本人や家族から意向・生活歴・身体状況の確認を行っている。また、必要に応じて医療機関や他の介護サービス事業所から情報提供を受け、過去の具体的な情報や支援方法の把握に努めている。入居後は日々の生活観察や会話の中から意向を汲み取り、詳細に記録している。定期的にケアカンファレンスを開催し、入居者一人ひとりの視点に立った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時の聞き取りの他、入居され、生活を始めてから得られる情報もある。必要な情報は支援経過に残し、総合的な把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的には入居者様それぞれのペースで生活していただいている。できる事はそれぞれ違い、また、それは日によっても違う。情報の把握ももちろんだがその時の状況でできる事を行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議も含めて日々の支援の中で今現在の課題や今、必要な支援については話し合っている。	入居者・家族の意向をもとに、会議にて検討し、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価・見直しを適切に行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。施設の管理・記録・情報共有については、主としてパソコンネットワークを活用して行われており、業務簡素化や職員間の情報共有に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は電子媒体にて記録しているので職員はいつでも見られる状態で情報共有をしている。上記の様に日々の話し合いの等でもその情報を生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居中、別の介護サービスを利用する事は想定しないが、ご本人、ご家族の希望にてのご利用を制限するものではない。むしろ医療の面では往診の他、必要に応じた連携にて支援を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の活動はほとんどないが、近所のお店に買い物に行ったりする事で地域との交流や入居者様の生活の充実を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から情報をもらい往診医との連携をしている。往診医はご本人やご家族が決めるもので施設側が決める事はない。適宜、情報交換や必要な指示を受ける事で医療面の支援を行っている。	協力病院の他、希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。定期的に内科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、必要に応じて訪問歯科も行っている。非常勤の看護職員を配置しており、健康管理・服薬管理・医療面おける相談や対応等が行われ、入居者・家族・職員等の不安解消に繋がっている。他にも、浦安市医師会作成の「地域連携シート」を、通院介助の際情報共有シートとして活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診対応は基本的に看護師を中心に行っており、そのための情報は看護師に伝えている。医療の専門職同士としての位置づけからかかりつけ医や施設看護師と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	浦安市医師会作成の地域連携シートを利用し入院先との情報共有をしている。その中にあらかじめ退院後、「施設での生活に戻る上での必須のライン(医療行為について)」と記載しつつ、退院後の受け入れについても入院先病院、かかりつけ医と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に施設でのお看取りについての説明をし、同意を得ている。入居後、身体状態の悪化等でお看取りの必要性が出てきた時には改めてご家族に意向を聞き、個別のお看取り介護の同意書を取り交わしている。	重度化・終末期においては、施設指針・同意書を作成すると共に、入居者・家族へ説明や同意を得ている。全職員が入居者・家族の意向を確認しながら、安心して納得の得られる支援方法の検討・方針の統一を図っている。日頃から医療面においては、連携医療機関と状況の変化やニーズに応じた適切な支援が行えるよう体制を整えている。施設として看取り支援の実績があり、経験を活かした柔軟な対応と共に、関係機関と連携し支援の統一を図る等、入居者や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例の施設内研修にて様々な状況での初期対応訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の研修や様々な災害想定で避難訓練を行っている。運営推進会議にて地域との協力をお願いしつつ協力体制を構築している。	火災報知機・スプリンクラー・自動通報機等を設置していると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。今年度はコロナ禍の為、自主訓練となっているが、火災想定訓練・消火器訓練・地震想定訓練等を実施しており、状況に応じた避難方法の確認を行っている。施設は鉄筋の建物で、火災・地震等の発生時における安全基準は満たしており、利用者・家族・職員の安心と安全に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の支援の中にて職員同士、お互いに気を付けながら声掛けをしている。また、施設内研修でも毎年行っている。	プライバシー・接遇マニュアル等を整備していると共に、研修や会議を通じて全職員に意識徹底を図っている。日々の支援においては、日頃から入居者の気持ちに配慮し、職員間で理念を意識し合いながら、ケアの実践に取り組んでいる。言葉遣いや対応方法については、マナー委員会が定期的に項目に沿った確認及び指導徹底を行っており、入居者の尊厳を守るため、施設全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望を言いやすいような環境作りを意識している。自己決定もしやすいようにその方の判断力に合わせて選択の幅を調整している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれの生活ペースを意識し、安全に配慮した中で、自由に過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれがお持ちになった服を着て過ごし、選べる方には自分で選んできていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳、食器拭きや味見等を職員と一緒にやっている。	食事は食事担当職員が主体となり提供しているが、食事の配膳・片付け等は可能な限り、入居者と職員と一緒にやっている。定期的に行事食や特別食を提供していると共に、お好みメニューや手作りおやつも行われており、入居者の食の楽しみを支援している。また、寿司等のテイクアウトやドリームキッチンの活用に加え、屋上でのバーベキュー大会の実施等、様々な食事提供の場面や雰囲気工夫凝らす等、食を通して入居者の生活活性化に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は1日1,000ccを基本ラインに支援している。食事量にも留意し、「全量摂取がすべてではない」という意識でその方の日々の食事量から適切な量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食行っている。困難な方にはうがいや口腔清拭を行っている。歯科的なケアが必要な方には訪問歯科による口腔ケアも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄ができる様にその方の排泄リズムの把握に努めている。	排泄記録を活用し、個々の排泄パターンを把握していると共に、仕草やパターンに応じて、声掛けやトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。記録はパソコンネットワーク“カナミック”を活用して記録されており、利用者一人ひとりの排泄状況を全職員が共有している。日頃から食事・水分・運動を工夫すると共に、必要に応じて、医師・看護師に相談し、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用がないわけではないが、食事にヨーグルトやヤクルトを提供し、下剤のみに頼らない排便を考えて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り自由に入浴できるように支援している。	入浴は入居者の希望に応じて、時間や回数等、柔軟に対応しており、本人の意向にそった入浴支援を行っている。必要に応じて、足浴・清拭・シャワー浴・部分浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。また、季節に応じて柚子や菖蒲を活用する等、入浴を楽しむことが出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	あまり眠剤は使わず、できるだけ日中の活動を増やす事で自然な入眠を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬情をファイリングしており、内服内容についての重要性和危険性を把握して服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日、その日の生活状況や今までの生活に合わせた支援を考え「自分がやれることがある」と感じられる事を重視して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や屋上での外気浴等を行い毎日のように短時間でも外の空気を吸えるように可能な限りの支援を行っている。	入居者の希望・体調・天気等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。また、定期的に入居者の希望や季節等に考慮しながら外出行事を企画・実践しており、外出がより楽しめるよう取り組んでいる。併設施設とは合同行事等で交流の機会があり、入居者の楽しみとなっている。その他にも、屋上が設置されており、プランター菜園を行うと共に、出入りが自由で、気軽に戸外に出れることから、入居者や職員にとっては憩いの場となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自身で持つ事に制限はないが紛失時に責任は持てない事はご家族に説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があれば支援をしている。携帯電話についても上記の様に紛失の責任は持てない旨説明して上で持っておられる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	蛍光灯は全てLEDに変えて色彩も柔らかい色合いと暗くならないようなバランスを意識している。	施設内はバリアフリー環境が整っており、十分な介助スペースが確保されている。また、エレベーターが設置され、入居者の身体状況や安全面に配慮した設備環境が整備されており、入居者・家族の安心と自由な生活に繋がっている。施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ベンチ等が備えられており、自由にくつろげる環境が整っている。施設内には、季節の飾り付け・入居者による作品・行事や外出時の写真等が掲載されており、楽しい雰囲気作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中ではあるがテーブル配置から座席配置を常に考えて工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学の段階から居室を見ていただき、実際のスペースからお住まいになる居室のイメージをしていただいている。なじみのものを持ち込んでいただき、慣れ親しんだ物で安心して過ごせるように考えている。	希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できる様配慮している。また、テレビやポータブルトイレの設置も可能となっており、生活歴や身体状況に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵や収納スペースを設置する等、プライバシー確保を意識した環境作りを行うと共に、洗面台・エアコンも備え、利便性に優れ、快適な生活に配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けてごく普通に自分の居室が分かるように配慮している。表札での理解が困難な方には目印になるような物(例えば花等)を表札に付けて理解しやすいようにしたこともある。		